



時事評論家 増田俊男

ガザの病院を爆破したのは誰だ

1941年日本が真珠湾攻撃に追いやられたように、ハマスも対イスラエル大規模攻撃に誘導されたのである。

何故ならイスラエルもアメリカもハマスの対イスラエル攻撃計画から実行まで全て把握していたからである。

2020年トランプ大統領の仲介でバーレーンとアラブ首長国(UAE)がイスラエルと国交回復したのをきっかけに湾岸諸国とイスラエルとの国交回復が続いている。

2023年3月中国の仲介でハマス軍事組織の設立以来後ろ盾となって常にハマスを支え続けたイランとサウジアラビアが国交正常化した。

対立が続いてきたスンニ派の盟主とシーア派の盟主の和解である。

そして今バイデン大統領の仲介でサウジアラビアとイスラエルの国交正常化交渉が進んでいる。

イランがバックのイエレンのテロ組織フーシーは8年以上サウジアラビアと戦争を続けてきたが、サウジ・イラン国交回復で戦闘停止、フーシーは不要になった。

原油生産国のアラブ湾岸諸国とかつて敵であったイスラエルとの国交正常化が進んでいる。

サウジアラビアとイランの国交回復をもって70年有余年間のアラブ対イスラエルの対立、抗争の時代は終わる。

ハマスはサウジアラビアとイランの国交回復、さらにサウジアラビアとイスラエルと国交回復交渉が進んでいる現状に危機感を募らせた。

ハマスはイエレンのフーシーのように無用の長物になるのではないか。

ハマスが対イスラエルミサイル攻撃を今までにない大規模(ミサイル 5,000 発)攻撃をしたのはイスラエルにガザに対して人道無視の大規模報復攻撃をさせる為であった。

そして何者かがガザ市内の大病院を爆破、500人に及ぶ死者が出て惨状が世界中に広まった。

ハマスの望む通り、アラブ諸国も国際世論もイスラエル非難轟々で、バイデンは予定したヨルダン国王、エジプトのシシ大統領、パレスチナ自治政府のアッバス議長との会談をキャンセルせざるを得なくなった。

湾岸諸国にイスラエルとの国交回復に疑問や反対の意見が飛び交っている。

正にハマスの願うところである。

イスラエルのネタニヤフ首相は、バイデン大統領がヨルダン国王、エジプトのシシ大統領、こともあろうに戦争の相手であるパレスチナ自治政府の議長に会ってガザの人道支援の協議をすることはイスラエルの望む通りにハマスを撃滅することが出来なくなることを意味する。

だからバイデンにイスラエル以外の訪問を阻止しなくてはならない。

ガザの病院爆破はハマスにもネタニヤフにも内心願ってもないことであった。

シリアの内戦でアサド大統領が化学兵器を使ったとして国際批判が起こったが、今頃になって、実はあの時アサドは化学兵器を使いたくても使えなかったことが明らかになった。

爆破されたガザの病院の瓦礫を化学分析すれば犯人は即分かる。

従って国際機関による調査は行われぬか、又は行われても「真相不明」の結果になる。

アメリカの大統領選で勝つにはユダヤ人協会の支持と投票の集計機をコントロールしなくては絶対に勝てない。

ネタニヤフに嫌われたバイデンは大統領選に立候補する資格がない。

ネタニヤフはトランプが大好きである。